

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2018.3.31 No.58

Japan Association of College and University

Archives : Eastern Japan Division

目次

- ・阿部 裕樹「平松礼二先生のご講演を聞いて」…………… 1
- ・古俣 達郎「全国研究会（テーマ「新制大学発足をめぐる各大学の動向
—その資料と活用—」に参加して）…………… 3
- ・桑折美智代「第107回研究会（清泉女子大学）に参加して」…………… 5
- ・阿久津朋子「第108回研究会（国際基督教大学）に参加して」…………… 6
- ・全国大学史資料協議会2017年度総会議事録・講演会記録…………… 8
- ・全国大学史資料協議会2017年度役員会議事録…………… 9
- ・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録…………… 10
- ・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録…………… 13
- ・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿…………… 19

2017年10月11日～13日 全国大学史資料協議会2017年度総会ならびに全国研究会・講演

平松礼二先生のご講演を聞いて

2017年10月11日（水）から13日（金）にかけて、愛知大学豊橋キャンパス・大学記念会館小講堂を中心に、全国大学史資料協議会2017年度総会ならびに全国研究会が開催された。その記念（基調）講演会は、平松礼二先生（愛知大学名誉博士、日本画家）を講師にお招きし、「国際教養としての日本の美学」と題して行われた。

平松先生は、当日の配付資料「愛知大学創立70周年記念 名誉博士 平松礼二画伯 特別展示会 日本画から世界画へ」によれば、1941（昭和16）年東京に生まれ、1961（昭

明治大学史資料センター 阿部 裕樹

和36）年に愛知県立旭丘高等学校美術科を、1965（昭和40）年に愛知大学をご卒業されている。おもな展覧会を挙げれば、「平松礼二展「路—花歴」「路—旅そして夢」（1998年、箱根・芦ノ湖成川美術館）、「平松礼二展」（1998年、外務省主催、韓国光州・ソウルジャパンウィークで開催）、「印象派・ジャポニスムへの旅 平松礼二展」（1999年、日本橋高島屋等）、「平松礼二展」（2001年、山中湖・高村美術館）、「日本画革新の潮流 平松礼二展」（2002年、湯河原町立ゆかりの美術館）、「Japan その色と形—ジャポニスムⅢ 平松



講演する平松礼二氏

礼二展」(2003年、日本橋、横浜、京都高島屋等)、「ジャポニズムの故郷 平松礼二展」(2005年、名鉄百貨店)、「さくらと富士山 Japan—平松礼二展」(2011年、パリ・YOSHII GALERIE)、「平松礼二 睡蓮の池・モネへのオマージュ」(2013年、フランス・ジヴェルニー印象派美術館)、「平松礼二 睡蓮画・モネへのオマージュ」(2014年、ドイツ・ベルリン国立アジア美術館)、「東京・パリ・ノルマンディー 平松礼二展—ジャポニズムの故郷を訪ねて」(2015年、日本橋、名古屋栄三越)等で、また2006(平成18)年には町立湯河原美術館に平松礼二館(常設展)が開館するなど、先生は世界を舞台にご活躍されている。身近なところでは、2000(平成12)年から2010(平成22)年にかけて『文藝春秋』の表紙を描かれている。1977(昭和52)年に創画展創画会賞、春季展賞を受賞されたのを皮切りに、第1回中日大賞展大賞受賞(1979年)、第12回MOA岡田茂吉賞大賞受賞(2000年)、第35回東海テレビ文化賞受賞(2002年)、第57回中日文化賞受賞(2004年)を受賞され、2009(平

成21)年には紺綬褒章を受章されるなど、先生の作品や活動は、高く評価されている。

平松先生は講演のなかで、ご自身が日本とフランスを頻繁に行き来されながら培われたご経験、あるいは日仏の美術史の例から、日本、あるいは日本人の国際性について述べられた。特に日本(人)の色彩、様式美、装飾性を強調されながら、西洋人が日本、あるいは日本人の何を・どこを見ているのかについて、先生の作品を拝見しながら、先生のお考えをうかがうことができた。国際化が叫ばれて久しいが、先生のご講演は大きなスケールでありながら、具体的な説明が多いたいへんわかりやすい内容であった。

あわせて、大学記念館2階で開催されていた「名誉博士 平松礼二画伯 特別展示会 日本画から世界画へ」を、平松先生の解説をうかがいながら鑑賞した。先生ご自身が「画家生活のダイジェスト」(前掲・配付資料)と評された展覧会で、日本各地を素材とされた作品や、講演の際に平松先生が例として解説された「空へ向かう睡蓮」等を実見した。フランスでも高い評価を受けている作品を目の当たりにできたことは幸運であった。

また、大学記念館1階では、愛知大学とその前身である東亜同文書院についての展示を、藤田佳久先生の解説をうかがいながら見学した。愛知大学史に名前を残された先学の業績について学ぶことができた。

最後になるが、会場校である愛知大学の皆様、大会の準備にあたられた協議会役員の皆様に心より御礼を申し上げます。

全国大学史資料協議会 2017 年度全国研究会

全国研究会（テーマ「新制大学発足をめぐる各大学の動向—その資料と活用—」）に参加して

法政大学史センター 古俣 達郎

2017 年度全国大学史資料協議会全国研究会は、2017 年 10 月 12 日、愛知大学豊橋キャンパス内の愛知大学記念会館にて、「新制大学発足をめぐる各大学の動向—その資料と活用—」をテーマとして行われた。

はじめに、立教学院展示館の豊田雅幸氏からテーマ発題（基調講演）がなされた。豊田氏は、2019 年の新制大学発足 70 周年という節目に向かって、天野郁夫氏の『新制大学の誕生』（名古屋大学出版会、2016 年）が刊行されるなど、新制大学研究の機運が高まりつつあることを指摘し、様々な学校群に属する各校が新制大学へどのように移行したのか、相互に検証する機会としたいとの趣旨を説明した。研究会では、計 6 校の報告が行われたが、今回の 6 校は以下の学校群に当てはまる（以下は、豊田氏の配布資料より）。

1) 国立大学

- ①国立総合大学（旧帝大）→第 1 報告・名古屋大学
 - ②地方国立大学（旧制官立大学群）→第 4 報告・熊本大学
 - ③地方国立大学（旧制高等学校・専門学校群）
 - ④単独系国立大学
- ### 2) 公立大学
- ### 3) 私立大学

- ①旧制私立大学群→第 2 報告・大谷大学、第 3 報告・明治大学

- ②「新設」旧制大学群→第 6 報告・愛知大学
- ③旧制私立専門学校群→第 5 報告・神奈川県大学
- ④旧制高等学校
- ⑤「新設」旧制専門学校群

ここでは、実際の報告順とは異なるが、上記の学校群の順序に従って、報告の要点を記しておきたい。

〈第 1 報告〉「名古屋帝国大学から新制名古屋大学へ—歴史とアーカイブズ—」

堀田慎一郎氏(名古屋大学大学文書資料室)

「国立総合大学（旧帝大）」群として、名古屋大学の事例が報告された。名古屋大学の場合、旧制では理学学部のみで構成されており、新制への移行とともに総合大学へと発展した。この点で、旧制時代から総合大学であった他の帝国大学と差異があり、堀田氏は名古屋大学を「総合国立大学」と「地方国立大学」の中間型と位置付けている。

〈第 4 報告〉「地方国立大学の設置と地域社会—熊本大学期成会資料を中心に—」

上野平真希氏（熊本大学文書館）

同じ国立大学の中でも、「地方国立大学（旧制官立大学群）」としては、熊本大学の事例が報告された。熊本大学は、文部省の 1 府県 1 大学の原則のもと、旧官立学校 6 校を前身に新制大学として発足した。上野平氏の報告では、同原則以前の帝国大学構想や南九州総

合大学構想も紹介された。

〈第2報告〉「旧制大学から新制大学へ—大谷大学の事例より」

松岡智美氏（大谷大学真宗総合研究所
大谷大学史資料室）

私立大学のうち、「旧制私立大学群」の一枚目は、大谷大学であった。大谷大学では、旧制を色濃く残しながら、新制へと移行した。新制発足時には新制・旧制ともに学生の募集が行われ、新制は教師資格の取得が未決定だったため、旧制入学者の方が多かったという。

〈第3報告〉「短期大学の発足と明治大学短期大学」

阿部裕樹氏（明治大学史資料センター）

明治大学は大谷大学と同じく、「旧制私立大学群」として位置づけられる。阿部氏の報告では、新制大学と同時期の短期大学の制度的な発足からはじまり、明治大学短期大学の特徴（女子対象の法学系短期大学であり、最も長期にわたって存続したこと）が論じられた。

〈第6報告〉「旧制大学として創立した愛知大学の創成期—新制大学への移行期も顧みて—」

田辺勝巳氏（愛知大学東亜同文書院
大学記念センター）

戦後に旧制大学として発足した事例は愛知大学である。愛知大学の場合、上海の東亜同文書院大学が終戦で廃止となり、同大に入学予定だった学生や上海から引き上げてきた学生たちの受け皿として発足したため、終戦直後の旧制の時代に認可を受けている。

〈第5報告〉「横浜専門学校の昇格過程

—神奈川大学の誕生—」

齊藤研也氏（神奈川大学大学資料編纂室）
旧専門学校から新制大学へ移行した事例と



総括討論の様子

して、神奈川大学が報告された。神奈川大学は、横浜専門学校を前身とするが、大学昇格への検討が開始されたのは、1947年5月のことであった。すなわち、同年3月の教育基本法・学校教育法の成立をうけたものである。昇格に際しては、卒業生を中心とした寄付金の募集が大々的に行われたという。

総括討論では、中央大学大学史資料課の中川壽之氏の司会のもと、質疑応答が行われた。特に印象的だったのは、新制への移行期の授業や入学試験などの基礎的な事柄に関しても不明な点が多々あることであった。中川氏が述べていたように、終戦直後であり、資料的な制約もあるだろうが、本学も含めて今後の明らかにしていかなければならない課題である。

今回の研究会は、タイプの異なる学校の事例を聞くことができる点で、大変有意義なものであった。会員の多くは、それぞれの事例を自校と照らし合わせながら聞いていたのではないと思われる。こうした取り組みは、多様な学校が参集する本協議会でなくしてはできないものであり、今後の研究会の一つのモデルを提供するものであったと言えるだろう。

2017年12月1日(金) 研究会

第107回研究会(清泉女子大学)に参加して

明治学院歴史資料館 桑折 美智代

第107回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は、2017年12月1日(金)13時30分から清泉女子大学本館にて開催された。当初予定の講演者に変更があり、講演1、2とも、清泉女子大学事務局管理課長の古郡信幸氏により行われた。2つの講演の間には、キャンパス内の自由見学、パネル展示見学、ビデオ放映があり、終了後16:30から2グループに分かれて学生さんの案内による本館見学が行われた。

講演に先立ち、会場校副学長の狐塚裕子先生のご挨拶のなかで、興味深いお話をうかがうことができた。先生は、大学院生時代に『東京大学百年史』編纂に関われ、編纂室に通われたとのこと。その際、苦勞して集めた膨大な資料や文献をどうするかという問題と直面されたそうである。年史等の編纂後の資料散逸は、現在でも解決しきれない大きな問題だと感じている。

講演1。「大学施設における文化財部分の保存と、施設活用について」では、古郡氏から、清泉女子大学のあゆみとともに、現在は、大学本館となっている、旧島津公爵邸(英国人建築家ジョサイア・コンドル氏の設計・施工)の変遷を詳しくご説明いただいた。2017年は、本館落成披露からちょうど100

年目を迎え、ライトアップ等いろいろ記念行事が開催されたとのことである。

続いて、ビデオ放映「愛ラブリビング」(日本テレビ番組)では、東京大学大学院工学系研究科教授・故鈴木博之先生が出演され、歴史を踏まえて旧島津公爵邸を解説されていた。明治学院の文化財補修工事で大変お世話になった先生でもあり、懐かしい思いで拝見した。島津家のご子孫が語られる、当時の邸内での暮らしぶりも大変興深かった。

講演2。「本館を未来に伝え、使い続けるために」をテーマに、古郡氏から『保存管理計画書』をもとに、東京都指定有形文化財の指定に向けての経緯の報告がなされた。

文化財指定後の、建物保存と活用のバランス問題は、本学でも抱えている。建物は使用していかないと寿命が短くなるのは事実。



古郡信幸氏の発表を聞く参加者

歴史的建造物の価値とは、当時の原型をとどめておくことのみを集約されるのだろうか、常に疑問に思っている。今後は、歴史的建造物の価値を残しつつ、例えばバリアフリー対応も含め、新たな活用の方向性が見出されてくるのではないかと期待している。

古郡氏の講演のなかで、大学本館のように優れた室内装飾がある建物は、芸術性の高い装飾を鑑賞し後世に残すという意味だけではなく、政治、歴史的背景も含め、いろいろな学問の取りかかりとなる文化財という生きた教材となり、“学びのきっかけ”が備わっているとの発言が強く印象に残った。

本学ではどうだろうか。文化財の建物を有

しながら、残念なことに、こういった視点では、特に大学生に対して活用を提供しきれていないと感じている。今後の活動の参考とさせていただきよ機会となった。

講演終了後、学生さんの案内による本館見学では、ご自身のことばで説明がなされ、まさに“学びのきっかけ”が根付いているのだと感じられ、非常に羨ましかった。

ステンドグラスや室内にほどこされた繊細な装飾はもちろんのこと、クリスマスの飾りで、本館建物内は一層美しさが際立っていた。この空間に身を置くことができたのは感激である。機会を与えてくださった関係者の皆様に深く感謝申しあげる。

2018年1月25日(木) 研究会

第108回研究会（国際基督教大学）に参加して

武蔵野美術大学 阿久津 朋子

2018年1月25日(木)、国際基督教大学(ICU)で第108回東日本部会研究会を開催。まず、『中島飛行機三鷹研究所について』というご講演を図書館の松山龍彦さんがお話しされた。ICUのキャンパスは国内初の民間飛行機製造会社である中島飛行機三鷹研究所の跡地に建設されている。中島飛行機は中島和久平により設立された会社で、戦時中、軍用飛行機を製造しており、軍需施設となっていた。この三鷹研究所は総務部、機体総部、

発動機総部で構成されており、その発動機総部があったためか、2017年には構内で飛行機エンジンが発見されている。しかし、かつては飛行機を製造していた場所とは思えないほど、現在は広大で静かなキャンパスで、学生たちにとって学生生活を過ごすには、素晴らしい環境であると言える。

続いて、図書館及びICU歴史資料室担当の久保誠さんより『ICU歴史資料室の概要と活動』についてお話し頂いた。ICUは1949

年に日本と北米のキリスト教界の指導者たちによって正式に創立された後、署名運動や募金活動によって、1953年に日本で最初の4年制教養学部大学として発足。そして、ICU 歴史資料室は献学60周年であった2013年に図書館内に設置され、50年史編纂の際に収集された約10,000点の資料を中心に収蔵しているという。更に、その収蔵資料はデータベース化が進んでおり、学内限定ではあるが公開されているとのことで大変参考になった。

また、印象に残ったのは、ICUは大学史資料と図書館所蔵の貴重書を同じ収蔵庫で保存しているため、歴史資料室の英語表記は“Archives & Special Collections”になるということである。これは海外では割と一般的らしく、それを採用しているという話を聞き、勉強になった。

講演後、展示室、収蔵庫、学内施設を見学。収蔵庫は温湿度管理が徹底できる環境で、収蔵棚なども素晴らしいものであった。

展示室では企画展「ヴァイニングとたねー平和を実現する教育者たちー」が開催。初代図書館長の高橋たねと、その友人であり、戦後日本の教育思想に少なからぬ影響を与えたエリザベス・ヴァイニングに注目した企画



講演する松山龍彦氏

展であった。また、展示室には常設されている展示品もあり、その中で最も目を惹くのはレプリカの名簿である。ICU 創立のために行われた署名活動で集まったものだが、日本はよく見るカード型なのに対し、海外は署名した紙をさらに別な紙に張り、ロール状にしている。それは展示室の目玉のひとつにもなっているとのことで、納得。ICUの歴史資料展示室といたら“アレ”となるくらいインパクトがあるので、大変うらやましいものと思った。

今回の国際基督教大学は成り立ちや土地についてなど、これまでの大学とはまた少し違った歴史を持つ大学で、大変興味深いことが数多くあった。一方で、人員の不足など、共通する課題や悩みも伺うことができ、大変充実した研究会となった。

全国大学史資料協議会

2017 年度総会議事録・講演会記録

日 時 2017 年 10 月 11 日 (水)

14 時～ 14 時 50 分

場 所 愛知大学豊橋キャンパス

愛知大学記念会館 3 階 小講堂

出席会員<東日本部会>

愛知大学 愛知医科大学

お茶の水大学 学習院 神奈川大学

慶應義塾 國學院大學 国土館

淑徳大学 専修大学 創価大学

拓殖大学 中央大学 東海大学

東京経済大学 東京農業大学

東北文化学園大学 日本女子大学

日本大学 法政大学 北海道大学

武蔵野美術大学 明治学院

明治大学 立教学院 早稲田大学

中村青志 林慎一郎 古郡信幸

松田栄作

<西日本部会>

大手門学院大学 大阪女学院

大阪大学 大谷大学 関西大学

関西学院 京都産業大学 近畿大学

熊本大学 甲南学園 神戸女学院

中京大学 同志社大学 広島大学

福岡大学 武庫川女子大学

桃山学院 立命館 龍谷大学

小宮山道夫 大城渡

東日本部会 = 30 会員 41 名

(内訳: 26 大学 37 名、個人他 4 名)

西日本部会 = 21 会員 24 名

(内訳: 19 大学 22 名、個人他 2 名)

総 計 = 51 会員 65 名

(内訳: 45 大学 59 名、個人他 6 名)

欠席届提出会員

東日本部会 = 25 会員

西日本部会 = 18 会員

司 会 専修大学 瀬戸口龍一氏 (全国大学
史資料協議会事務局)

会場校挨拶

愛知大学理事長・学長

川井 伸一氏

開会挨拶 神奈川大学 池原 治氏

(全国大学史資料協議会会長校)

議長選出 議 長 土屋あゆみ氏(大阪女学院)

副議長 岩口 敬子氏(拓殖大学)

総会の成立 議事に先立ち、事務局(立教学
院・豊田雅幸氏)より総会が成
立することが確認・報告された。

議 題 (1) 2017 年度全国大学史資料協議
会役員会の報告について

事務局(専修大学・瀬戸口龍一氏)
から、本総会開催に先立ち開催され
た全国役員会での審議内容について
報告された(※全国役員会審議内容
は「2017 年度役員会議事録」を参
照のこと)。

(2) 2017 年度東日本部会・西日本
部会事業計画報告

東日本部会事務局(立教学院・豊
田雅幸氏)、西日本部会庶務校(武
庫川女子大学・小川千賀子氏)から、
各部会事業計画書に基づき本年度の
事業計画が報告された。

(3) その他

西日本部会会長校(大阪大学・菅
真城氏)から、2018 年度総会・全
国研究会の会場および日程は未定で
あるが、福岡を候補地としているこ
とが報告された。

講演 平松 礼二氏 (愛知大学名誉博士・
日本画家)

演題 「国際教養としての日本美学」

〔概要〕 2017年10月11日(水)、愛知
大学豊橋キャンパス・大学記念会
館で平松礼二先生(愛知大学卒業
生、名誉博士)による記念講演会
が行われた。2017年度全国大学史
資料協議会総会後に行われた講演
会である。

演題は「国際教養としての日本の
美学」である。平松先生は著名な日
本画家で、身近なところでは2000
年から2010年にかけて『文藝春秋』
表紙を描かれている。

平松先生は、ご自身が日本とフラ
ンスを頻繁に行き来されながら培わ
れたご経験、あるいは日仏の美術史
の例から、日本、あるいは日本人の
国際性について講演された。特に日
本の色彩、様式美、装飾性を強調さ
れながら、西洋人が日本、あるいは
日本人の何を・どこを見ているのか
についてお考えを拝聴した。

あわせて、大学記念館2階で開催
されている「名誉博士 平松礼二画
伯 特別展示会 日本画から世界画
へ」を、平松先生の解説とともに鑑賞
した。平松先生ご自身が「画家生活
のダイジェスト」(同展覧会パンフレッ
ト)と評される絵画展では、日本各地
を素材とされた作品や、講演の際に
平松先生が例として解説された「空
へ向かう睡蓮」を実見した。フランス
で高い評価を受けている作品を目の
当たりにできたことは幸運であった。

また、大学記念館1階では、愛
知大学とその前身である東亜同文書
院についての展示を、藤田佳久先生
の解説とともに見学した。愛知大学
史に名前を残された先学の業績につ
いて学ぶことができた。(阿部裕樹)

見学 平松礼二特別展の見学・ギャラリ
ートーク (平松礼二)

大学記念館の見学・ギャラリート
ーク (藤田佳久・愛知大学名誉教授)

情報交換会 見学終了後、愛知大学豊橋キャン
パス・愛知大学逍遙館において、
情報交換会を開催した。司会を松原
太郎氏(日本大学)が行い、開会挨拶を池原治氏(神奈川大学・全国大
学史資料協議会会長校)が、乾杯の
音頭を菅真城氏(大阪大学・全国大
学史資料協議会副会長校)がそれぞ
れ務めた。新規入会会員、全国大会
初参加者などの紹介があり、閉会の
辞は会場校の三好章氏(愛知大学東
亜同文書院大学記念センター長)が
行った。

全国大学史資料協議会

2017年度役員会議事録

(第168回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会)

日時 2017年10月11日(水)

12時30分～13時00分

場所 愛知大学豊橋キャンパス

愛知大学記念会館1階

ガーデンサロン

愛知県豊橋市町畑町1-1

出席＜東日本部会＞

学習院（監査委員）
神奈川大学（会長）
國學院大學（運営委員）
専修大学（事務局）
東海大学（会計委員）
東京農業大学（運営委員）
日本大学（副会長）
古郡信幸（運営委員）
法政大学（会計委員）
武蔵野美術大学（運営委員）
明治大学（運営委員）
立教学院（事務局）

＜西日本部会＞

大阪大学（部会長校）
関西大学（副部会長校）
関西学院（副庶務校）
同志社大学（監査校）
広島大学（会報校）
武庫川女子大学（庶務校）
桃山学院（会計校）
立命館（HP担当校）

瀬戸口龍一氏（専修大学）が司会となり、役員会を開催した。

議事 (1) 2017年度総会・全国研究会の運営について

配布資料に基づき、総会・全国研究会の日程・役割分担が確認された。併せて、受付時の会計処理についても確認がなされた。

(2) 2017年度の東西両部会の共同事業について

①研究叢書について

広島大学・村上氏より、西日本部会担当の叢書第18号を、2017年10月に刊行したことが報告された。

なお、口絵の紙質が例年とは異なるものになってしまったため、業者負担による再印刷の可能性について報告がなされたが、現状のまま配布することが確認された。

叢書第19号の発行については、東日本部会が担当し、2018年度内に刊行すること、参加記を3名分（東日本部会2、西日本部会1）掲載することが確認された。

②2018年度総会・全国研究会について

西日本部会会長校の大阪大学・菅氏より、2018年度の会場・日程ともに未定であるとの報告がなされた。

(3) その他

東日本部会事務局（専修大学）より、2018年に部会が30周年を迎えるため、記念企画を検討中であることが報告された。詳細はまだ決まっていないが、各機関の紹介なども予定されているので、西日本部会にも協力を要請する可能性のあることが報告され、了承された。

最後に、本来、役員会冒頭でなされるべき会長校の神奈川大学・池原氏より挨拶がなされ、閉会となった。

全国大学史資料協議会

東日本部会幹事会議事録

第169回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録

日時 2017年10月11日（水）

13時00分～13時15分

会場 愛知大学豊橋キャンパス

愛知大学記念会館 1階

ガーデンサロン

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 東海大学 東京農業大学

日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院

古郡信幸

議題 (1) 2017年度全国総会ならびに全国研究会について

- ・事務局（立教学院）より、本日から開催される2017年度総会ならびに全国研究会での役割分担について確認がなされた。

- ・会報担当（國學院）より、会報および叢書の参加記について確認がなされた。

(2) 2017年度研究会について

- ・第108回研究会について、担当の武蔵野美術大学より、1月25日（木）に開催することが報告された。

第170回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録

日時 2017年12月1日（金）

12時30分～13時30分

会場 清泉女子大学本館2階 大会議室

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 東海大学 東京農業大学

日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院

古郡信幸

議題 (1) 2017年度総会ならびに全国研究会総括について

- ・会計校（東海大学）より、総会・全国研究会の参加人数および会費徴収内容の報告がなされた。

(2) 2017年度研究会について

担当の武蔵野美術大学、明治大学より報告がなされた。詳細に関しては今後HPにてアナウンスすることとした。

(3) 創立30周年記念事業について

事務局より、第2回ワーキンググループで検討した内容について、下記のような報告がなされた。

- ・会場校は國學院大學を第一候補とし、法政大学、明治大学を予備の候補とする。

- ・候補日は会場校を國學院大學とした場合、5月31日（木）を第一希望、5月24日（木）を第二希望として調整を行う。

- ・講演会講師は荒川章二氏を候補とし、講師決定後にシンポジウム参加者の選定を行う。

- ・HPに会員校の紹介ページを作成するため、業者と調整を行う。

- ・講師、シンポジウム参加メンバーの選定を今後進めていく。

- ・講師費用は3万円程度を目安とする。

(4) 2018年度東日本部会総会について

事務局より、創立30周年記念事業と合わせて開催することが再度確認された。

(5) その他

- ・会員の入退会について

事務局より、会員の入退会に

ついて報告がなされた。また、退会者の今年度会費徴収の対応に関して、会計校（東海大学）より報告がなされた。

- ・会計校（法政大学）より、会費未納機関・未納者に関しては、今後徴収を行っていく旨が報告された。
- ・編集担当校（國學院大學）より、会報の10月号については発行済であり、11月号を現在調整中である旨が報告された。
- ・事務局より、来年度総会・全国研究会について、2018年10月10日（水）～12日（金）に、九州大学で開催予定である旨が報告された。

第171回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録

日時 2018年1月25日（木）

13時00分～14時00分

会場 国際基督教大学 本部棟2階 206

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 東海大学 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院

古郡信幸

議題 (1) 2018年度東日本部会総会について

事務局より、日程・会場について報告がなされた。

(2) 創立30周年記念事業について

事務局より、第3回ワーキンググループで検討した内容について、下記のような報告がなされた。

- ・シンポジウムのテーマは、年間研

究テーマの「大学史資料の可能性」とする。

- ・シンポジウムの参加メンバー候補を、桑尾光太郎氏（司会）、松崎彰氏、西山伸氏、堀越峰之氏、大坪潤子氏、松原太郎氏とし、今後、各氏にアプローチを行っていく。
- ・WEB担当校（明治大学）より、HPにおける会員紹介ページ作成の業者見積もりに経費（交通費）が発生することが報告され、了承された。
- ・HPにおける会員紹介ページの作成に関しては、総会です承を得られるよう、準備を進めていく。

(3) 2017年度研究会について

- ・3月の研究会について、担当の明治大学より報告がなされ、3月15日（木）に開催されることが決まった。

- ・3月の研究会の記録係の馬場氏が欠席の場合、幹事会出席者の中から記録係を決めることとなった。

(4) 2018年度役員改選について

事務局より、3月の幹事会で調整を行うことが確認された。

(5) その他

- ・事務局より、会員の入退会について報告がなされた。

- ・事務局より、監査担当の浅沼氏（大東文化大学）が4月までに復帰可能かを確認し、復帰が難しい場合は3月の幹事会において調整することが確認された。

- ・編集担当校（國學院大學）より、会報は現在編集中であり、研究

叢書は全国大会のテープ起こし原稿を発表者に校正依頼している段階である旨が報告された。

- ・会計校（東海大学）より、2017年度年会費の納入状況について報告がなされた。
- ・会計校（東海大学）より、HPのドメイン更新費の支払いに関して報告がなされた。今までHPの管理作業料に含まれていたドメイン更新費については、今後東日本部会が1年契約で支払うことが報告され、了承された。

全国大学史資料協議会

東日本部会研究会記録

全国大学史資料協議会 2017 年度全国研究会
(第 106 回全国大学史資料協議会東日本部会
研究会)

テーマ 「新制大学発足をめぐる各大学の動
向—その資料と活用—」

日 時 2017年10月12日(木)～13日(金)

会 場 2017年10月12日(木)

愛知大学豊橋キャンパス

愛知大学記念会館3階 小講堂

愛知大学公館

2017年10月13日(金)

羽田八幡宮(豊橋市)、蔵王山、田
原市博物館(田原市)、豊川稲荷(豊
川市)

出 席<東日本部会>

愛知大学 愛知医科大学

お茶の水女子大学 学習院

神奈川大学 慶應義塾 國學院大學

国土館 淑徳大学 上智大学

専修大学 創価大学 拓殖大学

中央大学 東海大学 東京経済大学

東京農業大学 東北文化学園大学

東洋学園大学 富山大学

日本女子大学 日本大学 法政大学

北海道大学 武蔵野美術大学

明治学院 明治大学 立教学院

立教大学 早稲田大学

阿部武司 中村青志 西山伸

橋本久美子 林慎一郎 古郡信幸

細見大作 堀田慎一郎 松田栄作

森健一

東日本部会= 40 会員 51 名

(内訳: 30 大学 41 名、個人 10 名)

<西日本部会>

追手門学院大学 大阪女学院

大阪大学 大谷大学 関西大学

関西学院 京都産業大学 近畿大学

熊本大学 甲南学園 神戸女学院

中京大学 同志社大学 広島大学

福岡大学 武庫川女子大学

桃山学院 立命館 龍谷大学

大畑博嗣 小宮山道夫 大城渡

平崎真右

西日本部会= 23 会員 34 名

(内訳: 19 大学 30 名、個人他 4 名)

総 計= 63 会員 85 名

(内訳: 49 大学 71 名、個人他 14 名)

会場校挨拶 川井 伸一氏(愛知大学学長・
理事長)

開会挨拶 池原 治氏(神奈川大学大学資料
編纂室)

全国研究会テーマ

「新制大学発足をめぐる各大学の
動向—その資料と活用—」

司 会 瀬戸口龍一氏（専修大学）

テーマ発題・基調報告

豊田 雅幸氏（立教学院展示館）

〔概要〕 2017年度全国研究会の発会にあたり、東日本部会事務局校の立教学院・豊田雅幸氏より、全国研究会テーマである「新制大学発足をめぐる各大学の動向—その資料と活用—」について発題と基調報告がなされた。テーマ発題の趣旨は、新制大学発足70年目を迎えるにあたり、各大学における出発点の再確認と新制大学移行にあたっての過程や様々な問題について、国公立・私立の別を問わず各大学からの事例報告を通して、それぞれの新制大学像のあり方について検証することを目的とするものであった。基調報告では、新制大学への移行過程についての経緯をふまえ、立教学院における新制大学への移行過程についての事例も紹介しつつ、6名の会員による事例報告に続けるための問題提起がなされた。また、そのために必要な大学史資料とは何か、また資料の調査や収集および活用の仕方についてどのように取り組むべきか、といったアーカイヴズが担うべき問題についても視野を広げ、会員相互の情報共有の機会としたいことが提示された。

（椿田卓士）

報告1 堀田慎一郎氏（名古屋大学大学文書資料室）

「名古屋帝国大学から新制名古屋大学へ—歴史とアーカイヴズ—」

〔概要〕 1939年に名古屋帝国大学（医

学部と理工学部）が創立。地元の寄付によって校舎が建設されたが、空襲で校舎のほとんどを消失したという。そのため、復興も兼ねて1946年夏頃に法学部、文学部、経済学部、農学部の4学部の創設を計画。だが、文部省からは7学部揃えるよう言われ、他大学との合流を探るなど奔走した。しかし、その間、愛知県が一県一国立大学の原則から除外されるということも起こったという。

最終的には農学部設置を諦め、1949年に6学部及び研究所を揃え、「新制名古屋大学」として新たなスタートを切った。その後、1951年には農学部を設置し、総合大学としての基盤を拡張、整備していったと述べた。

そして最後に、このように新制大学誕生までの具体的な経緯を調べるには、当時の新聞記事と回想録に頼らざる得なかったと堀田氏は語った。公文書は「結果」しかわからないからである。そのため、公文書史料の限界を感じ、改めて現在のあり方を考える視点が必要ではないかと述べた。（阿久津朋子）

報告2 松岡 智美氏（大谷大学真宗総合研究所 大谷大学史資料室）

「旧制大学から新制大学へ—大谷大学の事例より—」

〔概要〕 大谷大学史資料室の概要・大学沿革・建学の精神を紹介の後、同大学百年史の記述を基に、新制大学移行期の動向について所蔵資料を用いた報告がなされた。

『学監日記』に記された戦後の制度改正のための学制審議会開催の記録、設置認可申請書に始まり、新旧学科編成の比較や新制と旧制の募集が併存する入学要覧、新・旧制の入試問題などの史資料から、制度面の諸相が垣間見えた。また移行期における校舎の増改築といった設備面での拡充が図面や写真で示された。

さらに今後の展望として、展示や校舎のペーパークラフト作成といったこれまでの普及活動の展開のほか、建築図面保管の現状・課題についても述べられた。なお総括討論中、新・旧制併存中の試験や講義の内容への質問に対し、入試科目に異同があったこと、新制より旧制の志願者が多く、旧制で可能だった真宗大谷派教師の資格取得が新制の募集案内で「未定」とされたことが参考として挙げられた。（大坪潤子）

報告 3 阿部 裕樹氏（明治大学史資料センター）

「短期大学の発足と明治大学短期大学」

〔概要〕 明治大学の阿部氏からは、発足当初の明治大学短期大学の特徴について、他の短期大学との比較検討を踏まえた報告があった。明治大学短期大学は1950年に法律科、経済科、新聞科、社会科が開設され、工学科は設置されたものの学生募集がなかった。法律科、経済科については女子のみで、旧制の明治女子専門学校が母体となっている。

従来、短期大学に関する研究は女子教育を中心として展開されて

きたが、発足当時の短期大学を比較すると、女子のみの学科は短大全体の47%であり、およそ半数は共学、男子のみの学科が存在した。短期大学の申請母体では、旧制専門学校からの移行が最も多く、昇格が見送られた旧制専門学校の救済措置という意味合いが数値からも読み取れる。短期大学の意義について議論されるようになった近年になって再検証が進められつつあり、短期大学の発足期についても、今後さらなる研究の蓄積が期待される。（松原太郎）

報告 4 上野平真希氏（熊本大学文書館）

「地方国立大学の設立と地域社会—熊本総合大学期成会資料を中心に—」

〔概要〕 上野平氏は、地方国立大学の設立運動事例として熊本大学を取り上げ、その設立過程を知るうえで重要な熊本総合大学期成会資料の紹介を交え、報告を行った。

戦後間もない頃より、熊本では帝国大学設立構想が出されていたが、設立議論は進まなかった。1947年7月、熊本県知事を代表者とする南九州総合大学設置期成会が発足し、熊本県が音頭を取り南九州における総合大学の設立運動を展開した。翌年6月、一府県一大学の実現を図る「国立大学設置十一原則」が文部省から出されたことにより、熊本に国立大学の設置がほぼ確実となった。これにより南九州総合大学設置期成会は、熊本総合大学期成会として熊本県における総合大学設置に向け運動転換し、1949年5月、69

の国立大学のうちの一つとして熊本大学が誕生した。

熊本大学設立の過程に関する資料としては、熊本県議会議事録、GHQ/SCAP 資料、熊本総合大学期成会資料（熊本大学文書館所蔵）等がある。これらの資料から、地域の復興や将来のため大学が必要であるという前提のもと、県市町村が一体となって設立運動が展開されたことが確認できる。（古郡信幸）

報告 5 齊藤 研也氏

（神奈川大学資料編纂室）

「横浜専門学校の上格過程—神奈川大学の誕生—」

〔概要〕 齊藤氏の報告では、旧制専門学校から新制大学への移行例として、同氏が所属する神奈川大学の事例について所蔵資料を用いながら報告された。

神奈川大学は、横浜専門学校を前身とし、1949年に新制大学として昇格した。昇格への本格的な議論は、1947年の学校教育法・教育基本法を受けて開始されている。その後、大学設立基準委員会や復興準備委員会等が設置され、募金活動が活発に行われた。これらの活動が実り、1949年2月、無事昇格を果たすが、この間には、空襲による校舎の炎上、林頼三郎校長の公職追放、横浜総合大学構想など様々な苦難があった。

（秋山彩子）

報告 6 田辺 勝巳氏（愛知大学東亜同文書院大学記念センター）

「旧制大学として創立した愛知大学

の創成期—新制大学への移行期も顧みて—」

〔概要〕 昨年（2016年11月）に創立70周年を迎えた愛知大学。上海の「東亜同文書院」が発展し「東亜同文書院大学」をルーツとしており、1939年（昭和14年）に大学に昇格をした。

当時の戦時下における情勢と学校の動向、日本国内での開学と校地の変遷の紹介。また、名古屋大学との合流について、大学史資料や新聞記事を紹介して説明が有った。創立70周年記念冊子『創生期への招待』を制作・編集するにあたり、巻頭記事の選定理由や構成についての工夫を紹介した。（畑川直哉）

総会討論

司会 中川 壽之氏（中央大学広報室大学史資料課）

パネリスト 豊田 雅幸氏（立教学院展示館）
堀田慎一郎氏（名古屋大学大学文書資料室）

松岡 智美氏（大谷大学真宗総合研究所 大谷大学史資料室）

阿部 裕樹氏（明治大学史資料センター）

上野平真希氏（熊本大学文書館）
齊藤 研也氏（神奈川大学大学資料編纂室）

田辺 勝巳氏（愛知大学東亜同文書院大学記念センター）

〔概要〕 報告の後、総括討論が中川壽之氏（中央大学）の司会進行で行われた。堀田報告で紹介された文部省資料の内容について、帝国大学における

学部設置構想等の説明が同氏より補足された。松岡報告に関し、旧制学校と新制大学の併存期における入試や授業の実態について質問があり、松岡・阿部・齊藤の三氏より回答及び事例紹介が行われ、旧制から新制への移行期は残存資料が少ないこともあり未解明の点が多いことが確認された。阿部報告に関しては、短期大学の卒業生の進路及び短大存続の意味について質問があり、短大から4大学学部編入への比率などが紹介され、閉校した短大の資料の移管や保存についても意見交換がなされた。田辺報告に関しては東亜同文書院と近衛家との関連についての補足に加えて、藤田佳久氏からは愛知大学創設時の状況についてコメントが加えられた。上野平報告に関しては、熊本総合大学期成会が昭和30年代半ばまで存続した理由について質問があり、同氏から募金活動などについて説明が行われた。

報告全体に関しては、新制移行期における男女共学についての議論や、在学生や卒業生による運動について、各報告者から卒業生による昇格運動や募金、旧制学校からの教員の移行などについて事例紹介が行われた。(桑尾光太郎)

閉会挨拶 菅 真城氏 (大阪大学)

見学会 羽田八幡宮蔵 (旧羽田八幡宮文庫)、蔵王山、田原市博物館、豊川稲荷

〔概要〕 10月13日、会場近隣の名所・旧跡を巡る見学会を実施した(参加者数は、東日本部会が26名、西日

本部会が15名)。移動はチャーターバスで行い、会場校である愛知大学の藤田佳久名誉教授・伊藤綾子(東亜同文書院大学記念センター)の両氏も同乗された。最初の見学地である羽田八幡宮では、同社務所にて羽田八幡宮文庫の由来と歴史的価値について話を承った。続いて蔵王山頂上の展望室に移動。藤田氏より田原市および東三河地区の地勢について説明を受けた後、田原市博物館に移動した。同館では別所興一氏による渡辺崋山に関するフロアレクチャーを受けつつ展示見学を行い、さらに同館近傍にある渡辺崋山塾居の場である池ノ原幽居跡を別所氏の説明のもと見学した。その後バス車中にて昼食をとり、豊川稲荷(豊川閣妙厳寺)へ移動した。豊川稲荷では2グループに分かれ、現地のボランティアによる案内を受けながら境内を見学した。最後に同地にて集合写真を撮影した後、豊川駅および豊橋駅にて散会し、三日間の全日程を締めくくった。(椿田卓士)

第107回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日時 2017年12月1日(金)

13時30分～17時10分

会場 清泉女子大学 本館2階 大会議室

出席 お茶の水女子大学 学習院

神奈川大学 國學院大學 国士館

淑徳大学 専修大学 拓殖大学

東海大学 東京女子大学

東京農業大学 東邦大学

東洋学園大学 南山学園
 日本女子大学 日本大学
 武蔵野美術大学 明治学院
 明治大学 明星大学 立教学院
 立正大学 早稲田大学
 中村青志 林慎一郎 古郡信幸
 松田栄作 益井邦夫

会長挨拶 池原 治氏

(神奈川大学大学資料編纂室)

会場校挨拶 狐塚 裕子氏(清泉女子大学副
 学長・文学部教授)

司会 椿田 卓士氏(東海大学学園史資料
 センター)

講演① 大学施設としての旧島津公爵邸
 古郡 信幸氏(清泉女子大学事務局
 管理課)

自由見学

講演② 本館を未来に伝え、使い続けるために
 古郡 信幸氏(清泉女子大学事務局
 管理課)

見学会 清泉女子大学学生の案内による本館
 見学

〔概要〕 第107回東日本部会研究会は、
 2012年に東京都指定有形文化財に
 指定された清泉女子大学本館で開催
 された。開会に先立ち同大学副学長
 の狐塚裕子氏の挨拶があり、続いて
 講演が行われた。講演は当初の計画
 に変更もあったが、「大学施設とし
 ての旧島津公爵邸」「本館を未来に
 伝え、使い続けるために」という二
 本立てで、いずれも同大学事務局管
 理課長の古郡信幸氏にお話しいただ
 いた。二つの講演の合間にはビデオ
 放映、公演後には本館の見学が行わ
 れた。同大学の歩みとともに、現在

は本館として利用されている旧島津
 公爵邸の歴史について学ぶ研究会で
 あった。(渡邊 卓)

第108回全国大学史資料協議会東日本部会
 研究会記録

日時 2018年1月25日(木)

14時00分～16時30分

会場 国際基督教大学 本部棟2階
 206会議室

出席 お茶の水女子大学 学習院
 神奈川大学 國學院大學 自由学園
 淑徳大学 上智大学 女子美術大学
 専修大学 拓殖大学 帝京大学
 東海大学 東京経済大学 東邦大学
 東洋英和女学院 日本大学
 武蔵野美術大学 明治大学
 立教学院 立正大学
 中村青志 橋本久美子 林慎一郎
 古郡信幸 松田栄作 益井邦夫
 会員外3名

会長挨拶 池原 治氏

(神奈川大学大学資料編纂室)

会場校挨拶 オルバーグ, ジェレマイア L.
 (国際基督教大学図書館長)

司会 阿久津朋子氏(武蔵野美術大学大学
 史史料室)

講演① 松山 龍彦氏
 (国際基督教大学図書館)
 「中嶋飛行機三鷹研究所について」

講演② 久保 誠氏(国際基督教大学図書館)
 「ICU 歴史史料室の概要と活動」

見学会 歴史資料室書庫・企画展およびキャンパス見学

〔概要〕 はじめに国際基督教大学図書館の
 松山龍彦氏が「中嶋飛行機三鷹研究

所について」と題して講演された。国際基督教大学の所在地の地形や地理的条件とともに、かつて存在した軍需施設である中島飛行機三鷹研究所について説明があった。続いて同図書館の久保誠氏から、国立基督教大学歴史資料室の概要と活動についての講演があった。歴史資料室は2013年に図書館内に設置され、収蔵資料は50年史編纂の際に収集された約10000点の資料が中心であるという。収蔵資料はデータベース化されており、学内では閲覧・検索が可能となっている。今後は学内のMLA連携を進めるとともに、ミッション系の他大学の大学アーカイヴズとも連携を図りたいとのことであった。講演後は2班に分かれ、特別展「ヴァイニングとたねー平和を実現する教育者たち」を開催中の歴史資料室及び特別収蔵庫と、中島飛行機三鷹研究所時代の建物でヴォーリス建築事務所設計の大学本館を交互に見学した。(松原太郎)

全国大学史資料協議会

東日本部会会員名簿

(2017年3月31日現在)

- 1 愛知医科大学 アーカイヴズ・医学情報センター(図書館)
- 2 愛知大学 東亜同文書院大学記念センター(豊橋研究支援課)
- 3 青山学院 資料センター
- 4 跡見学園女子大学

- 庶務課 大学資料室内
- 5 お茶の水女子大学 歴史資料館
- 6 学習院 学習院アーカイヴズ
- 7 神奈川大学 大学資料編纂室
- 8 関東学院 学院史資料室
- 9 国立音楽大学 校史資料室
- 10 慶應義塾 福澤研究センター
- 11 恵泉女学園 史料室
- 12 皇學館大学 研究開発推進センター
- 13 國學院大學
校史・学術資産研究センター
- 14 国際基督教大学 歴史資料室
- 15 国士館 国士館史資料室
- 16 駒澤大学
禅文化歴史博物館大学史資料室
- 17 芝浦工業大学
経営企画部企画広報課・図書館
- 18 自由学園 自由学園資料室
- 19 淑徳大学 淑徳大学アーカイヴズ
- 20 上智大学 史資料室
- 21 女子美術大学 歴史資料室
- 22 成城学園
教育研究所(成城学園百年史編纂室)
- 23 聖心女子大学 総務部
- 24 聖路加国際大学 学術情報センター
大学史編纂・資料室
- 25 専修大学 総務部大学史資料課
- 26 創価大学 創価教育研究所
- 27 大東文化大学
大東文化歴史資料館(大東アーカイヴズ)
- 28 拓殖大学 創立百年史編纂室
- 29 玉川大学 教育博物館
- 30 多摩美術大学 大学史編纂室
- 31 中央大学 広報室 大学史資料課
- 32 津田塾大学 津田梅子資料室
- 33 帝京大学 帝京大学総合博物館

- 34 東海大学 学園史資料センター
- 35 東京家政大学
広報連絡会議（総務部総務課）
- 36 東京経済大学 図書館・史料室
- 37 東京女学館 史料編纂室
- 38 東京女子医科大学
史料室・吉岡彌生記念室
- 39 東京女子大学
大学運営部総務課 大学資料室
- 40 東京電機大学 総務部（企画広報担当）
- 41 東京農業大学 図書館事務課
- 42 東邦大学 額田記念東邦大学資料室
（法人本部経営企画部）
- 43 東北学院 東北学院史資料センター
- 44 東北大学 史料館
- 45 東北文化学園大学
図書館事務室（学園史編纂室）
- 46 東洋英和女学院 史料室
- 47 東洋学園大学 東洋学園史料室
- 48 東洋大学 井上円了研究センター
- 49 獨協学園 獨協学園史資料センター
- 50 富山大学
総務部アーカイヴズ設置検討準備室
- 51 南山学園 南山アーカイブズ
- 52 日本女子大学 成瀬記念館
- 53 日本体育大学 図書館
- 54 日本大学 企画広報部広報課
- 55 フェリス女学院 資料室
- 56 法政大学 法政大学史センター
- 57 北海道大学 大学文書館
- 58 武蔵学園 記念室
- 59 武蔵野美術大学 法人企画グループ法
人企画チーム 大学史史料室
- 60 明海大学 浦安キャンパス
メディアセンター（図書館）

- 61 明治学院 歴史資料館
- 62 明治大学 大学史資料センター
- 63 明星大学 明星教育センター
- 64 立教学院 立教学院展示館
- 65 立教女学院 資料室
- 66 立教大学 立教学院史資料センター
- 67 立正大学
学長室 大学史料編纂課
- 68 早稲田大学 大学史資料センター

以上機関会員 68・個人会員 34・名誉会員 6

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【専修大学 総務部大学史資料課】

〒101-8425
東京都千代田区神田神保町 3-8
☎ 03-3265-5879

【立教学院 立教学院展示館】

〒171-8501
東京都豊島区西池袋 3-34-1
☎ 03-3985-4841

会 報 編 集

【國學院大學 校史・学術資産研究センター】

〒150-8440
東京都渋谷区東 4-10-28
☎ 03-5466-6677